

幼稚園教育に望む

鈴木和夫

私は今まで小学校教員としての経験ばかりで幼稚園の経験は少しもない。しかし受取る一年生の中には半数以上の幼稚園、保育園の卒業生があつて、そのつながりの上の小学校である。

一年生の受持と教育懇談会をするといつても入学前の生活、即幼稚園時代の教育への希望が多少なり必ず出て来る。

幼稚園から小学校へ直結した無駄のない合理的な教育が行われたら今の小学校教育はもっと充実したものになるだろう。しかし当地の現状では到底、達せられないことである。幼稚園はそれぞれの私立幼稚園であり、保育園であつて、公立小学校との緊密なる連絡等考えながらも不可能であつたのである。

たまたま今回、当江尻学区に、学区立とも云うべき、学校幼稚園設立のはこびとなり、はからずも、その園長を委嘱され、はじめの名ばかりではあるが、幼稚園教育に直接タッチする機会に恵まれ、日頃小学校として、幼稚園に望むこと、幼稚園から小学校へ望むこと等の一端を話合える機会を与えられたのである。

以下は私が小学校長として日頃考えるところを、素直に江尻幼稚園職員に申し上げた数項である。一般幼稚園教育にたづさわる人達に参考となれば幸である。

一、幼稚園から小学校へ一貫した教育にしたい

現在本校入学児童は幼稚園から50%、保育園から27%、家庭から23%の割で入学して来ている。随つて学校では各種類の公私立幼稚園、保育園、更に家庭からとマチ／＼の教育を受け又全々受けていない児童を一定の線までに揃えるのに少くとも一学期は要するのである。これは一定の線に揃えないと幼稚園教育は小学校に於てから廻りする恐れがあるのである。

本校に於て家庭から直接、入学して来る児童を見ると、家庭の貧困なもの、又一人子、末子、長子等で、他の幼稚園教育を受けて、嬉々として元氣よく学校生活をして居る中に卑屈感を持つたり、劣等感を持たつたりして、他の児童より立ちおくれを来すとすれば、それは考えなければならぬ問題である。対策としては貧困児童の爲には保育施設を拡充し、国の力においてこれを収容し、我儘な子供達の爲にも幼稚園教育を理解させて、収容したならば、全児童の一年保育位は可能の様に考えられるので、こゝに小学校と幼稚園とに一貫した教育が出来るのではないだろうか。

一、幼稚園教育過程にはつきりした段階を

小学校から見た現状は保育園を出た子供も幼稚園を出た子供も大した違いを見とめない。更に驚くべきことは幼稚園等に於て一年保育も二年保育もさしてその差が見とめられない。むしろ長く教育された者の方が、我儘で依頼心が強くて乱暴であつかいにくい子供が多い様な声がかかされる様では、何かしらその教育方法に研究の余地が残されて居る様に思われてならない。もっとその幼児の心身の発達過程を段階的に研究し、その生活指導がより合理的になるべき

であると思われる。

三、教科過程についての御願ひ

○文字について

入学当初から自分の名前だけは読めないと、とても不自由であるから、せめて名前だけは読める様には小学校での一様の声である。しかしこれが行き過ぎて、教え過ぎる傾向はないか、特に文字の書き方まで習得して来る児童があるが考えものである。これが正しく教えられて来るのならまだ良いが時に小学校での筆順と一致せず、先入観となった、間違つた筆順になやまされる事が度々あるのである。これは父兄の中に文字等もなるべく多く教え込む幼稚園が進んだ幼稚園なりとの誤つた考えを持つものがあるがこれに迎合してはならない。幼稚園にはその発達過程に応じた指導があることを忘れてはならない。

○言語について

幼児言葉も入学が近づくにつれて正しい言葉にきりかえて正しい言葉を使わせてほしい。幼稚園には独特の幼稚園言葉があつて、先生同志の間までその言葉が使用されて居る様である。お幼稚(幼稚園のこと)僕ちゃん(男の子の愛称)お絵かき(図画を描くこと)等々。

○しつけについて

一般に幼児である為少し遠慮しすぎ甘やかされていないだろうか。小学校で疑問に思う点は長く幼稚園に学んだものに依頼心が強くなつて来ていることである。原因は色々あるが、若し園児獲得の為に父兄に遠慮し児童を甘やかして、順次自主的に育てられるべき

ものを逆に依頼心を育てたとしたら最もいましむべきことである。小学校に来て一寸むづかしい仕事にぶつかると、すぐ「先生やうつ」と云つて自分で工夫し、苦心して成しとげ様とする態度に欠けている児童を見受けるのは残念である。たとえ出来上つた図画工作は下手でも、自分の工夫努力によつて出来上つたものこそ価値あるものであることを知らしめたい。幼稚園児の作品の中にはどこまでが児童で、どこまでが教師かわからないものがあると見るのは私ばかりではないと思う。

次に示す様な日常生活のしつけは是非お願いしたい。おじぎの仕方。椅子での正しい姿勢。手の洗ひ方。手拭の使ひ方。はきものぬぎ方等はその正しい方法で習慣になるまでしつけていただきたい。

○保健について

幼稚園に於て日常保健上のことについてはかなり、親切丁寧に指導して居るのであるから、これらについての記録を小学校に充分連絡してほしい。特に予防注射等の記録は小学校では是非必要とするものである。チフスの注射の施行回数、ツベルクリンの結果、BCG、チフテリア。等。

四、経費について

前述の通り幼稚園教育を出来るだけ一般化して普及させ小学校教育と一貫した無駄の無い教育をしたいのであるがこれには先づもつと経費のかゝらない幼稚園。もつと授業料の安く、行き易い幼稚園としたいものである。これには施設とか経費に多くの費用を要するので、国でも充分なる補助をすべきである。幼児教育の必要を説き

ながら何の考慮も払わないのは、吾々の最も心外とする所である。所がこの教育機関である幼稚園を營業的に考へて、いたずらに高い授業料によって高い負担を父兄に負わせる向があるとすればこれこそ最もいむべき事である。その為、園児をお客扱いにし、甘やかすために依頼心を強め泣きむしにするのである。幼児教育の逆行、これより甚しいものはないのである。

五、小学校との連絡

今迄申し述べたことは要するに、小学校と幼稚園とがよく連絡し合えばすべて解決する問題である。その連絡があまり少な過ぎると云うことである。

先日、私は東京のある公立小学校とその附屬幼稚園を視察した。目的はその連絡はどの様にして行われているかと云う事である。この幼稚園の園長先生に色々とお懇切な御指導を受けたのであるが、やはり結論的にはもつと緊密な連絡を取りたいのだが、との話して全般的に十分な連絡が取れて居らないのではないかと思われた。それも一般的に大学は高校へ、高校は中学へ、中学は小学へ、小学は幼稚園と云つた、上級学校が下級学校への呼びかけが少ない様に思われる。各学校は常に上級学校にばかり頭が向いて居る様であるがこれは考えものである。

私は次の様な事をして幼稚園と小学校との連絡をとっている。

(1) 授業参観会

○一年の授業を幼稚園の先生に見てもらつて其の後の成長ぶりと小学教育の認識を高める。

○幼稚園の指導ぶりを一年の受持に見てもらつて幼児教育を小学校

の先生にも理解させる。

(2)、一年の受持と幼稚園の受持との懇談会を催す。

(3)、行事を共同でやる。運動会、音楽会、等。

(4)、幼稚園行事の手伝。運動会前の準備、教室、運動場の清掃、等上級生が教師と共に手伝う。

(5)、施設、備品の交換、融通使用。

運動場、教室、幻燈、スライド、遊具等。

園長と校長を兼ねているので此の点、誠に都合が良い。

六、幼稚園の先生の良さ

先日幼稚園の園長会議の席上、議長の方から、座談的に、幼稚園の先生ほど忙しいものはない。女の若い先生等、土曜、日曜もなく、下着の洗濯も出来ないのもので気の毒だとの話があつて、私は実は驚いたのであつた。

早速小学校へ帰つて先生方に、

「幼稚園の先生方も下着を洗うひまもない程忙しい。忙しいのは小学校ばかりでは無い」と云つて話したのであるが、要するに子供の教育は、きりのない仕事で熱心になればなる程忙がしくなるのだとの結論を得た。たゞ小学校と比べると、雑務が少く諸会合が小学校ほど無いので直接教育に関係ある仕事に没頭出来る。これが何より羨ましい点である。放課後等、明日の教育の為、共同して準備している様子等。ほんとに美しい姿である。

七、母の会の協力

子供が小さいだけに、母の会の協力が熱心で、献身的である。

(清水市立江尻幼稚園)